



日本歯科大学（新潟病院
医科病院）

Vol. 15
2012.4.1

アイヴィ通信

～皆様の口腔と全身の健康を目指して～

患者さんが通院しやすい病院とは ー社会実験バスを運行してー

衛生学講座

教授 小松崎 明



長寿社会を迎え、日々の健康を守り病気を予防するためにも、定期的な健康診断を受け、早めに治療を受けることが重要です。地域住民の皆様の健康増進に向けて、気持ちよく通院いただけるような病院を目指すことも、私どもに課せられた社会的使命といえます。WHOでも「都市化と健康」を世界保健デーのテーマに掲げるなど、社会環境と健康との関連に着目し、各地の都市交通システムの再構成や、まちづくり事業でも「地域で住民の健康を支える」との意識が強くなっています。

今年度から本院では、新潟市8大学連携研究事業の一環として、短期間ではありますが、患者さんの送迎を目的とした社会実験バスを運行させていただくことになりました。運行に際しては、皆様に多大なご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

患者さんにとって、通院しやすい病院とは？…もちろん本来の医療サービスの向上は追求しなければならない点ではありますが、それだけで満足度の向上が期待できるものではないと考えます。私どもの立場からも、歯科医療資源として有効に利用していただくとの考え方で、新たな存在価値を認めていただく必要性を認識しています。

今回の社会実験に先立ち、皆様に通院手段や通院時間を聞き取り調査させていただきました（その結果は4ページに掲載）。そして、その結果をふまえて「積雪期の通院環境の改善」を目的とした社会実験バスを運行いたしました。



これから数年の間に、新潟駅の高架化やBRT（専用レーンバス）の運行など、市内の都市交通システムは大きく変貌します。私ども医療機関もそれら変化に対応しつつ、地域保健医療の向上を図ることが重要と考えています。今後は、他の保健・医療機関と連携し「保健医療バス」のような運行の可能性を含め、社会実験バスの検証を行う予定です。



意図的再植法で歯を残す

● 総合診療科 医長
准教授 横須賀孝史



◆はじめに

今回で紹介するのは、意図的再植法(いとてきさいしょくほう)という治療法です。わかりやすく言えば、「一度歯を抜いてから、悪い部分を取り除くなどの処置をして、再び元の場所に戻す治療法」です。そんなことできるの?と思われるかもしれませんが、条件さえ整っていれば出来るのです。

今回は、顔面に受けた外傷により差し歯が取れてしまったため治療が難しくなってしまった歯を、意図的再植法を行い治療した例をご紹介します。

◆経過および方法



● 図1 歯の裏側から撮影した写真、歯根がわずかに確認できる

今回治療した患者様は30歳代の女性です。転倒したため、上口唇のケガと上の前歯の差し歯が外れたので、本院の口腔外科を受診され治療を受けました。その後、差し歯にするための治療を総合診療科で行うことになりました。図1は歯の裏側から撮影した写真です。差し歯が取れた部位には仮歯(かりば)が付けてあります。歯根(しこん：いわゆる「歯の根っこ」のこと)はわずかに確認できますが、大部分が歯ぐきに覆われています。図2はエックス線写真です。一本だけ差し歯(白くぬけている部分)がなく、歯根のみが残っています。このまま歯根の治療をした

いのですが、難しいために意図的再植法を行うこととしました。

麻酔したあと抜歯(ばっし：歯を抜くこと)をしました。図3は、歯根が歯ぐきから見えるように、歯を引き上げた状態に戻した時の写真です。図4は、その時のエックス線写真です。図2と比べて歯根が出ているのがわかります。これで歯根の治療が行い易くなりました。

歯に戻したあと、隣の歯と接着剤で固定をします。図5は、意図的再植法を行ってから1年経過したエックス線写真です。この間に歯根の治療を行ったのち差し歯を装着しておりますが、経過は良好です。



●図2 一本だけ差し歯がなく、歯根のみが残っている



●図3 歯を引き上げた状態、歯根がよく確認できる



●図4 図2と比べて歯根が出ているのがわかる



●図5 1年経過、予後は良好と思われる

◆さいごに

歯の外傷を受けやすい年齢は一般的に8～12歳とされており、その原因としては、単なる転倒や打撲の他に、スポーツや自転車乗車時の事故、さらにはケンカなどさまざまです。歯の外傷の約80%は上の前歯で、次いで下の前歯に多くみられます。

意図的再植法は、「歯を残すための最後の手段」とも言えます。今回ご紹介した例の他に、歯にヒビが入っている、歯が割れた、根っこの治療をしているがなかなか治らない、などに用いられることがあります。しかし、条件が整っていないために抜歯になる例、意図的再植法を行ったものの抜歯にいたってしまう例が多いことも事実です。これは?と思いましたら担当医にご相談ください。



新潟病院への来院手段 聞き取り調査結果のご報告

● 衛生学講座

講師 石井 瑞樹



新潟市8大学連携事業の一環として実施された無料送迎バスの社会実験に先立ち、昨年末に事前調査として、患者さんを対象とした「当院への来院手段についての聞き取り調査」を医科病院待合室にて実施しました。その結果を報告させていただきます。

◆1) 調査について

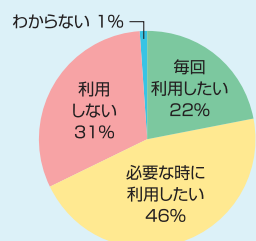
調査対象数は96名(男性47名、女性49名)であり、年齢では約8割が40歳以上の方々でした。調査項目は、表1に示す5項目です。

● 表1 当院への来院手段聞き取り調査 項目

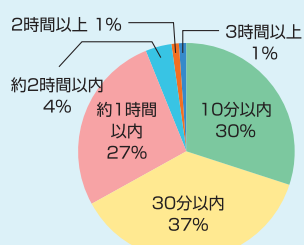
- 問1 本日来院時に利用した交通手段
- 問2 無料送迎バス運行の際のご利用の可能性
- 問3 希望する無料送迎バスの行き先
- 問4 普段よく利用する交通手段
- 問5 当院までの通院時間

◆2) 結果

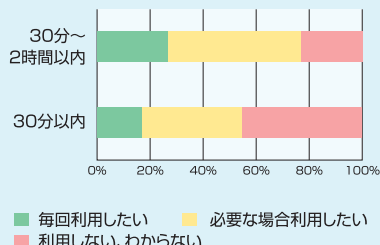
● 図1 無料送迎バスのご利用の可能性



● 図2 当院までの通院時間



● 図3 通院時間別にみた送迎バス利用の可能性



来院のための交通手段は、自家用車(運転と同乗の両方含む)が53%、バスが26%、徒歩が16%の順でした。当院と最寄駅間で無料送迎バスを運行した際のご利用の可能性(図1)については、60%以上の患者さんが、毎回あるいは必要時に利用したいと回答され、希望する無料送迎バスの行き先で最も多かったのは、新潟駅で45%、次いで関屋駅27%、古町19%、万代10%の順でした。当院までの通院時間(図2)については、30分以内が全体の67%を占め、30分以上～約2時間以内が約30%でした。

無料送迎バスを利用したいと回答された方は非常に多く、特に、通院時間が比較的長い患者さん(30分以上～2時間以内)では77%が利用を希望しており、比較的短い患者さん(30分以内)の55%を上回っていました(図3)。遠方からのアクセスに関する利便性の向上が課題と思われました。

調査にご協力いただいた皆様には大変感謝いたしております。誠にありがとうございました。



病院で働く人々

第8回 hospital specialist

「院務部」の高橋 美帆 です。



私達の仕事は、総合受付での患者さんの応対だけでなく、カルテの準備や整理、治療費の請求、一般事務や電話対応など、その仕事は多岐にわたります。なかでも治療費の請求は重要な業務の1つです。

病院には、1日に600人～800人もの患者さんが来院されます。その全ての患者さんに対して治療費の計算をします。治療費は、厚生労働大臣によって定められた診療報酬点数表と呼ばれるものに基づいて計算します。その点数表には、処置や手術など細部にわたり費用が定められています。私達は、患者さんを長時間お待たせしないよう、医師・歯科医師が記載したカルテを素早く、正確に点検し、点数表に従って治療費の計算をしています。このようにして算出された治療費の患者負担分（一般的には治療費の3割）を、会計窓口で頂いています。患者負担分は診療のつど、皆さんから窓口で頂いていますが、残りの7割は、「保険者」と呼ばれる機関に対して1ヶ月分をまとめて請求しています。



保険者に請求する為には、皆さんが加入されている保険証の確認がとても重要になります。「変わらないのに、どうして毎月確認が必要なの？」と思う方もいらっしゃると思いますが、厚生労働省の指導により、月1回の保険証の確認が義務づけられているのです。この事をご理解頂き、来院時には必ず保険証をお持ち下さるよう、ご協力をお願いします。

私達は医療スタッフの一員として、病院内の業務がスムーズに進むよう努めていますが、それよりも大切なのは患者さんへの応対だと思っています。不安を持って来院される患者さんの気持ちを理解し、安心して診療を受けていただけるよう、病院の顔として「明るく親切に」を心掛けています。不安な点がありましたら、お気軽にお声がけいただければと思います。

新潟
病院

臨床研修歯科医師の



第13回 本年度の総括 臨床研修歯科医師の1年

●総合診療科 歯科医師臨床研修指導委員会
講師 渥美陽二郎



このコラムでは毎回、臨床研修歯科医師の先生方が、歯科の話題に関して分かりやすく紹介しています。今回は総括として、本院における臨床研修歯科医師の研修内容について説明したいと思います。

大学(歯学部)を卒業、歯科医師国家試験に合格すると4月から臨床研修施設にて臨床研修を受けます。本院の臨床研修には単独型、複合型(短期)、複合型(長期)の研修プログラムがあり、各々研修プログラム

を選択し研修を行います。単独型は1年間本院の総合診療科を中心とした研修を行います。複合型短期、長期は4～8ヶ月間協力型研修施設で研修を行い、他の期間は本院の総合診療科を中心とした研修を受けます。また全ての研修プログラムで、口腔外科における病棟研修、在宅歯科往診、睡眠歯科センター、障害児・者歯科センターの研修も行います。最後に研修最終月の3月に研修の集大成として、臨床研修修了プレゼンテーションを行っています。

歯科医師臨床研修の目標は、患者中心の全人的医療を理解し、すべての歯科医師に求められる基本的な診療能力(態度、技能、知識)を身に付け、生涯研修の第一歩であると言われています。そのため、将来歯科医療に携わる者として重要な期間であると思われます。

編集
後記

■今年は雪の止まない冬でしたが、ようやく春めいてまいりました。寒さが厳しかった分、陽の光の温かさや優しさをより感じます。新年度で色々新しい生活をされている方も多いかと思います。環境の変化で身体にストレスを溜めないよう、これから色々咲く花々に目を留める心のゆとりも忘れずにお過ごし下さい。(yama)



日本歯科大学新潟病院・医科病院

アイヴィ通信



発行日/平成24年4月1日 発行人/関本恒夫 五十嵐文雄
〒951-8580 新潟県新潟市中央区浜浦町1-8
TEL 025-267-1500(代) FAX 025-267-1546(支援室直通)